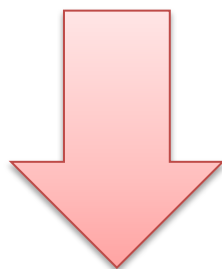


抄読会に取り組んで

長崎県 介護老人保健施設 恵仁荘
介護福祉士 ○平野 周作
介護福祉士 元村 操

はじめに

- ケア専門雑誌を毎月購入し読むように勧め
ていたが、個人の努力に任せていた状況で
は読んでいないスタッフが多かった。
- 新人職員研修は入社後積極に行っているが
その後の中堅職員教育が不十分であった。



この反省から・・・

2年前より抄読会を実施している

取り組み内容

■実施日

毎週火曜日 13時30分から15分間

■参加者

施設長(医師)・担当スタッフ1名・看介護スタッフ
(計15名程度)

※担当はローテーションで決定

事前準備

施設長が雑誌より学習してもらいたい内容複数選定



担当者が学びたい内容を決定



テーマを他スタッフが把握できるように1週間前に掲示
(施設長・看介護部長にも事前に提出)

発表方法・終了後

テーマ選定の理由及び内容をまとめて発表



発表後は質疑応答の時間を設けている



終了後は質問事項等を記入した報告書を提出

アンケート(後ろ向きの設定)

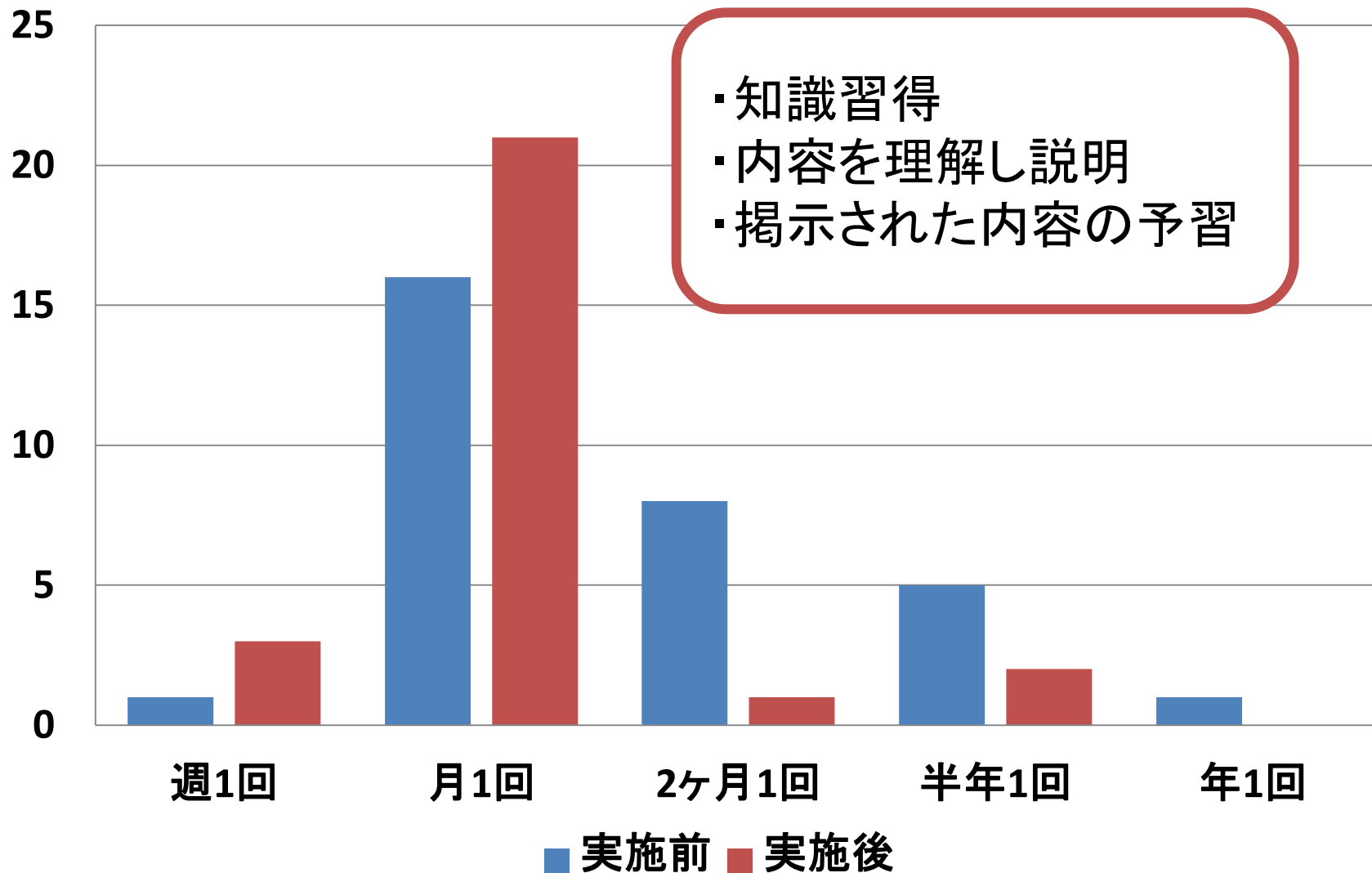
①雑誌を読んだ頻度

②個人及び施設としてのスキルアップに
繋がっているか

①雑誌を読んだ頻度

頻度が増えた要因として・・・

- ・知識習得
- ・内容を理解し説明
- ・掲示された内容の予習

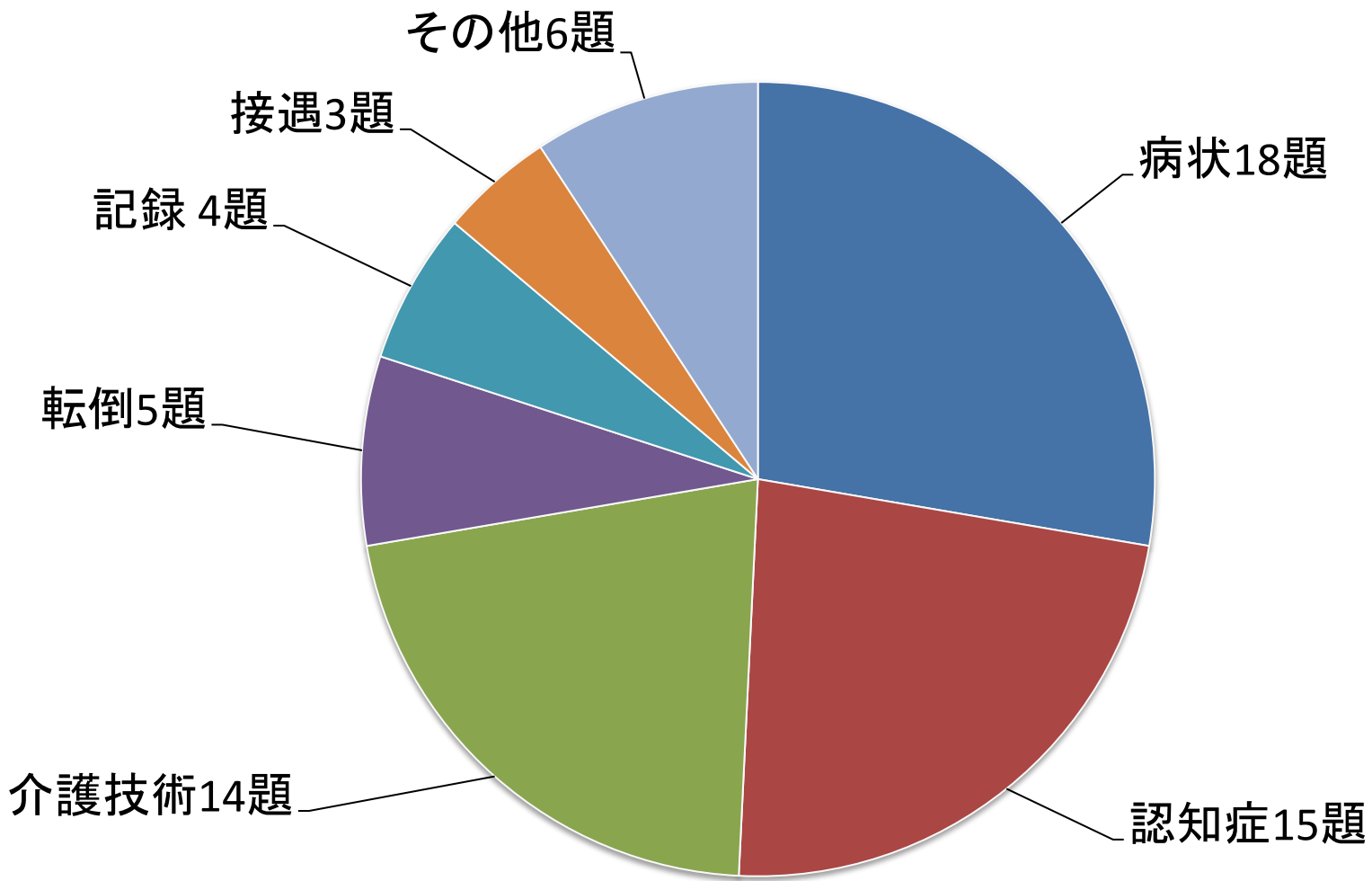


②個人及び施設としてのスキルアップに繋がっているか

| | はい | いいえ |
|----|-----|-----|
| 個人 | 34名 | 6名 |
| 施設 | 27名 | 13名 |

折角の学習が日々の業務・ケアに繋がっていない。

抄読会テーマ分類



考察

<抄読テーマ職種別では>

看護職は病状・介護職は認知症と介護技術が多かった。

<選定方法として>

業務やケアを行う中で施設として足りない部分や自分達が直面している課題、新たな知識習得及び再認識を目的に選んでいた。

<発表形式では>

当初は・・・

選んだ記事をそのまま読む

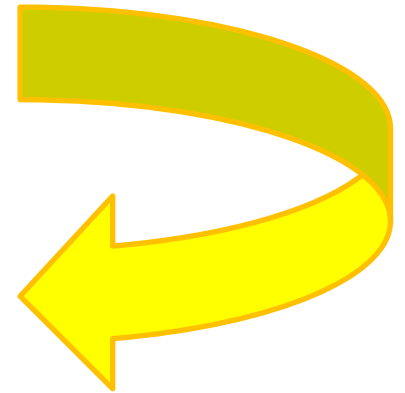
受け身的発表



最近では・・・

自らの考え

施設内の事例



要点をまとめ発表する形式も増えつつある。

<抄読会から実際のケア改善に至ったケース>

「高齢者によく見られる皮膚疾患の特徴とケアのポイント」

□全利用者の皮膚の乾燥状況の観察



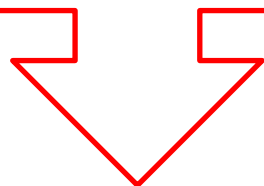
□皮膚が乾燥している利用者30名(100名中)



□入浴後、保湿剤(アセチロール)を塗布し皮膚の保湿に努めている

夜間に起こりうる利用者の急変とその対応

新人教育及びスタッフの再認識を目的



外部講師を呼びAEDを含む緊急対応について施設全職員対象の研修に繋がった。

個人でも・・・

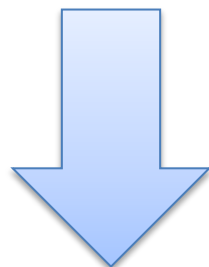
「浮腫のある利用者にマッサージを行いながら会話している」

「便秘傾向の利用者の水分量・便の性状を気掛けて観察するようになった」

新人教育にも繋がっている

中堅職員の意識変化として

- 抄読内容を積極的に知識習得・予習
- 業務内での気付き・自らの思考を含めて発言
- 後輩への抄読会内容の相談・指導



中堅教育としての効果あった

まとめ

現状

今後

施設・個人
スキルアップ

達成感

教育
学習

実践

検証
総括

記録
報告

